



『典型的な美人顔』を創造する

廣比利次

Toshitsugu Hirohi, M.D.

リッツ美容外科

Ritz Cosmetic Surgery

1959年7月16日東京都・目黒生まれ。かに座、B型。

1979年東京大学理科II類入学(3年間在学)、1989年国立山梨医科大学卒業後、東京大学形成外科学教室(波利井清紀教授)に入局し、形成外科、美容外科を専攻する。その後、東京警察病院、都立広尾病院、静岡県立総合病院、東京専売病院、竹田総合病院等で美容形成外科学を修得し、2000年2月に東京・目黒にてリッツ美容外科を開設し、現在に至る。

備考:

<学会受賞歴>

1998年 第74回日本美容外科学会(JSAS)

「頬骨骨切り術」 医師会会長賞

2009年 第32回日本美容外科学会(JSAPS)

新手術手技コンテスト1 「下眼瞼下制術」会長賞

2010年 第33回日本美容外科学会(JSAPS)

治療コンテスト～高齢者のtotal facial rejuvenation～ 入賞

<著書>

美容外科手術手技 鼻形成術 克誠堂出版

■抄録

カネボウ化粧品美容研究所で、『典型的な美人顔』に関するアンケート調査(2005年)が行われました。

理想とする“美人顔の条件”としては、

1.卵型のほっそりとした顔面輪郭

2.立体的な顔立ち

3.二重の大きな目

4.小さく高い鼻

5.やや大きく厚めの唇

などが挙げられました。

調査データは10年前とやや古いのですが、理想とする美人顔の条件は、今も変わらず永遠不変のものと思われます。

これらの理想は、私たち美容外科医が日々患者様に施している代表的な治療です。

今回の発表では、これらの項目うち、顔面輪郭、鼻、そして眼瞼をテーマの中心として、典型的な美人をつくる戦略を検討してみました。

本発表では細部を深く掘り下げるのではなく、出来る限り多くの症例を供覧しながら、多岐にわたる数多くの治療法を紹介していきます。JSASでは、大変多くの会員が、臨床中心の日々を送っています。そこで明日からの診療に役立つ、実践に即したプレゼンを心がけます。多少なりともバイアスのかかった発表になるかと思われますので、ご意見、ご批判などございましたら、どうか遠慮なくフロアから発言いただければ幸甚です。

memo